



旭丘小だより

練馬区立旭丘小学校
学校だより 11月号
平成28年10月31日発行
発行責任者：野田 豊

伝統文化を体験する

副校長 相原 和子

旭丘小学校では今年度伝統文化教育事業推進校の指定を受けています。その取組の一つとして、6年生が「茶道・華道」、5年生が「篠笛」の体験をしました。

6年生は旭丘中学校の和室で茶道・華道の体験を実施しました。最初は茶道体験。正座をして抹茶をいただく体験は初めての子が多く、緊張して臨みました。講師の先生が丁寧にやり方を説明してくれたので、一つ一つの動作を確認しながら進めました。抹茶とともに味わった和菓子の方が印象に残ったようでしたが、抹茶の味の前に和菓子を味わうこと理由や茶道は室町時代から伝わる相手をもてなす方法であることなどを学びました。

翌週に実施した華道体験では、数人で一つの花器にユキヤナギ・カーネーション・クジャクソウを生ける体験をしました。同じ種類同じ数の花でも、グループによって向きや並べ方、傾け方などが違い、それぞれに思いあふれる作品になりました。華道は、現在でも和室を始め部屋を飾るために生けている様子を見ることが多くあります。今回は自分たちが実際に花を生けることを通して、お客様を迎えるためのおもてなしの心を学ぶことができました。

5年生は「篠笛」の体験をしました。篠笛は篠竹でできた30cmほどの長さの笛で、横にしてフルートのように持って吹く笛です。和楽器の中では比較的扱いやすい楽器と言われています。授業では最初に講師の先生の演奏を聴きました。そして「ホタルこい」の曲をふけるようになることを目標に練習をしました。学校では縦笛のリコーダーを使っていますが、横笛は初めて。穴を指で押さえることも、縦笛とは違ってなかなかうまくいかない様子でした。さらに横に向けた笛の穴を押さえながら息を入れて音を出すことに挑戦しました。始めはうまく音が出なかった子も、だんだんいい音が出るようになってきました。最後に笛の持ち方、姿勢に気を付けることを学びました。以前に和太鼓を経験した5年生の子供たちは、リズム感もよく、すんなりと和楽器に親しむことができました。今後もう一度体験の授業を行い、全員で「ホタルこい」を演奏し、まとめをします。

本校で進めているオリンピック・パラリンピック教育の中でも、「日本人としての誇りと自覚」を育てる活動を行っています。今回の伝統文化に触れる活動を今後も進めていき、日本の伝統や文化の良さを知ることを通して、豊かな国際感覚をはぐくんで参ります。

